

51. 解答 c

- a. 正：蜂窩肺は特徴的所見。
- b. 正：牽引性気管支拡張像も特徴的所見。
- c. 誤：すりガラス陰影も特徴的所見であるが、広範なすりガラス陰影が間違い。
- d. 正：下肺野背側末梢優位な非区域性分布を示す。
- e. 正：同上。

52. 解答 e

- a~d. 正
- e. 誤：単純 X 線写真で正常でも肺血栓塞栓症を否定できるものではない。

53. 解答 d

- a. 誤：肺梗塞でも認められる所見であるが、その他の病態でも生じ得る所見。
- b. 誤：同上。
- c. 誤：肺門部肺動脈が指関節のごとく拡張している像をいう。肺血栓塞栓症を示唆する所見。
- d. 正：胸壁を底辺とし、肺動脈末梢を頂点とする楔状の陰影のことをいう。本所見は塞栓のみでは認められず、肺梗塞が起きてはじめて認められる所見である。
- e. 誤：肺動脈末梢の乏血に基づく透亮像をいう。肺血栓塞栓症を示唆する早期の所見。

54. 解答 dとe

- a. 誤：均等浸潤影。
- b. 誤：急速進行する一側もしくは両側の均等浸潤影。
- c. 誤：組織侵入型アスペルギルス症、アレルギー性気管支肺アスペルギルス症、肺アスペルギルス腫にて様々な所見を呈する。
- d. 正：両側びまん性のすりガラス陰影を示す。
- e. 正：同上。

55. 解答 c

- a. 誤：脂肪や歯牙といえは奇形腫。
- b. 誤：同上。
- c. 正：胸膜播種はよく見られる所見。
- d. 誤：末期には転移が見られることもある程度で、リンパ節転移や血行性転移は通常稀。
- e. 誤：分葉状で辺縁が不整、内部不均一なことが多く、嚢胞変性は来すこともあるが多くのはない。

56. 解答 c

- a. 正：大動脈解離には血栓閉鎖型と偽腔開存型があり。これらの鑑別も含め CT は単純および造影を行う。
- b. 正：心臓は常に拍動しており、通常の撮像法では拍動の影響を大きく受けてしまう。これに対し心電図と同期させて CT を撮像することで、ある一定の心位相での心・冠動脈の情報のみを収集することができ、拍動の影響を受けない画像を得ることができる。
- c. 誤：肺動脈が明瞭に描出される造影早期相の CT にて診断する。
- d. 正：呼気の CT にて診断するもので、正常な肺野より吸収値上昇が少なく面積もほとんど変化しない所見がみられたときに空気捉え込み現象という。
- e. 正：腹臥位で撮像すると消失する。

以上、解答 51～56 は野尻 淳一会員（佐賀医科大学）